文化庁 文化財保護

文化庁 日本の技フェア

～文化財を守り続けてきた匠の技～

2021年11月20(土) 10:00～17:00 | 21(日) 10:00～16:00

会場 **ベルサール秋葉原**

東京都千代田区外神田 3-12-8
住友不動産秋葉原ビル１階

【アクセス】
JR 線「秋葉原駅」電気街北口徒歩３分、つくばエクスプレス「秋葉原駅」A3出口徒歩５分
日比谷線「秋葉原駅」２番出口徒歩６分、銀座線「末広町駅」１または３番出口徒歩４分

事前予約制

事前予約はこちら

https://art-ap.passes.jp/user/e/nippon-no-waza

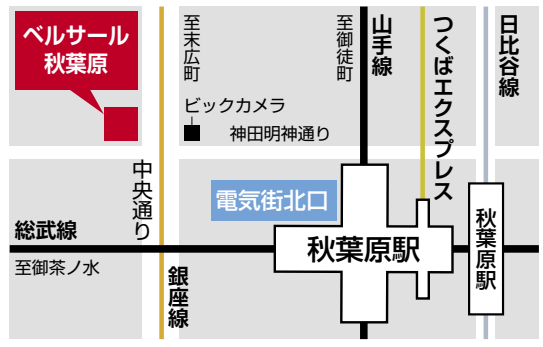
※事前予約に空きがある場合は、
当日のご入場も可能です。

入場無料

文化財を未来に残していくための修理技術や材料・道具を製作する技
【文化財の保存技術】が一堂に集まります。この機会にぜひご覧ください。

主催：文化庁／共催：全国文化財保存技術連合会
後援：東京都教育委員会、千代田区教育委員会、NHK／協力：住友不動産ベルサール株式会社

【選定保存技術】国では、「文化財の保存技術」のうち、保存の措置を講ずる必要があるものを「選定保存技術」として選定し、
その技術の保持者や保存団体を認定して、技の保存・伝承を図っています。



1 （公財）文化財建造物保存技術協会 伝建

国宝や重要文化財建造物を保存修理・活用していくためには、専門的な知識と経験に裏打ちされた技術者による設計監理を欠くことができない

建造物修理
建造物木工

旧富岡製糸場西置繭所（群馬県富岡市）

同左（1階室内 エントランス）

破損調査

文化財建造物は、社寺、城郭、住宅、近代建築などあらゆる分野にわたっています。その構造も、木材、石造、煉瓦造、鉄筋コンクリートなど多種で、地域や工匠達の系統による差もあります。これらの建造物の保存修理には、高度な専門的知識が必要であり、大工等の技能者に対し実技を指導しうる能力を必要としています。

2 （一社）日本伝統建築技術保存会 伝建

文化財建造物の修復において、設計手法や施工技術を解明し、適正な施工をする“木工技術”

建造物木工

日本の木造建築技術は、千数百年以上昔から連綿と受け継がれ、我が国の気候風土と融合、調和して発達を遂げてきた日本が世界に誇る技術のひとつです。日本の伝統的木造建築技術を守り、次代に継承するためには熟練した「木工技能者」が必要です。

慈尊院多宝塔（和歌山県九度山町）

実演

「文化財建造物などの柱の根継ぎ修理に用いる金輪継ぎ」
「丸柱を自然石の上に建てる際の柱脚部と石口のひかり付け」
「台鉋削り、ヤリ鉋削り」

3 （一社）社寺建造物美術保存技術協会 伝建

あらゆる調査と地道な研究により、歴史的建造物の美を後世に傳える“装飾の技”

建造物装飾

神社や寺院などの建物に施されている装飾には、漆を使った「漆塗り」、絵具を使った「彩色」などがあります。いずれも日本の建築美を支える伝統技術です。伝統的な建物の装飾には、私たち日本人の先祖の営みと綿々と受け継がれている美意識を見ることができます。

石清水八幡宮楼門（京都府八幡市）

彫刻への着彩の様子

4 （公社）全国社寺等屋根工事技術保存会 伝建

古来より連綿と受け継がれてきた我が国固有の“屋根工法”

檜皮葺・柿葺
茅葺 檜皮採取 屋根板製作

檜皮葺：檜の立木からむいた皮を薄く整形し、竹釘で打ちとめながら葺き重ねていきます。それらは、世界遺産に登録されている厳島神社など伝統的な古建築に残されています。檜皮の耐久年限とされる30～40年の周期で葺き替えられ、建物を風雨から守っています。

厳島神社（広島県廿日市市）

実演

「檜皮葺」

5 （一社）日本茅葺き文化協会 伝建

万葉の時代から受け継がれてきた茅の文化、草の力

茅採取

茅は茅葺き屋根をはじめ、簾や葭簀、俵などに使われ、最終的には肥料として豊かな実りをもたらし、日本人の暮らしを支えてきました。用途に応じて、茅の種類や質を選び、それを育てる茅場を野焼きなどで維持し、茅の持続的な生産をはかってきました。その茅場は生物多様性の宝庫でもあり、環境保全に大きな役割を果たしてきたのです。

白川郷荻町合掌造民家集落（岐阜県白川村）

実演

「苫編み、苫葺き」

6 （公財）日光社寺文化財保存会

伝建

社寺建造物を鮮やかに装飾した
先人達の色彩を甦らせる“彩色”“漆塗”

建造物彩色
建造物漆塗

三猿（見ざる、言わざる、聞かざる）でも有名な日光東照宮をふくむ世界遺産に登録されている日光二社一寺をさまざまな「彩色」や「漆塗」の技術で、美しく彩られた建物として甦らせています。

日光東照宮 陽明門
（栃木県 日光市）

実演
「金箔の貼り付けと着彩」
「金箔押し」

7 （一社）日本伝統瓦技術保存会

伝建

優雅な屋根の曲線を伝統的な技法で葺き上げる
ための判断と技能が求められる“本瓦葺”

屋根瓦葺（本瓦葺）

奈良の法隆寺など日本の伝統的な建築物の屋根には本瓦葺が多く使われています。本瓦葺は雨や風への対策を考えた上で、軒の反りや屋根の優美な曲線を伝統的技術で葺き上げる大変高度な技術です。

仁和寺観音堂（京都府 京都市）

実演
「本瓦葺」

8 全国文化財壁技術保存会

伝建

古来から受け継がれてきた
“左官技法の漆喰”で仕上げられた、
世界文化遺産姫路城の白壁

左官（日本壁）

伝統的な左官技術には茶室などに用いられる古式京壁と、城郭に使われる漆喰壁があります。お城の壁と言えば姫路城のような白亜の壁を思い浮かべますが、この壁が漆喰壁です。美しさと同時に強靭さをもつ壁を作るには材料の吟味や調合方法、水引加減の見極めなど熟練の技術が必要です。

姫路城
（兵庫県 姫路市）

実演
「茶室用竹小舞掻き」
「中塗り（ひげこ打ち・ちり廻り・中塗り）」
「上塗り（白漆喰・黄土のり土・紅色のり土仕上げ）」
「姫路城仕様屋根漆喰塗り」

9 （一財）全国伝統建具技術保存会

伝建

木材を組み合わせた細工を施す“組子”は、
建具のなかで突き抜けた美しい技

建具製作

実演
「建具製作」

神社や寺院などの建具［戸や窓など］を製作する技術です。組子細工による装飾など、繊細な美的表現も必要とされます。

清水寺 本堂（京都府 京都市）

10 文化財畳保存会

伝建

隣合った縁模様を伸縮させながら縫い合わせる、
高度な“畳製作の技術”

畳製作

実演
「伝統畳の製作」

畳は世界に類を見ない日本固有の文化です。文化財建造物にはさまざまな様式の畳が使用されてきました。畳床に畳表を張り、絹などの畳縁を縫い付けて仕上げます。また、装飾的な紋縁を使用した紋合わせと呼ばれる特殊な技法などを保存継承しています。

書院

11 （一社）国宝修理装潢師連盟

伝建

絵画や書跡などを
最適な材料と方法で
修理する技術

装潢修理技術

建物から壁貼付（障壁画）を取り外す作業（京都市 二条城二之丸御殿）

修理した文化財の例：
重要文化財 二条城二之丸御殿障壁画
大広間四の間 南面 襖 紙本金地著色
松鷹図（京都市所蔵）

実演
「虫穴を埋める」

掛軸や襖、屏風、冊子等に仕立てられる絵画や書跡などの文化財は、多くが紙や絹など、とても弱い材料でできています。数百年もの時を越え、貴重な文化財が今も姿を残しているのは、人々が大切に扱ってきたということだけでなく、適切な時期に定期的な修理が行われてきたからともいえます。装潢修理技術とは、絵画や書跡の修理を行う技術のことを指しています。

12 （一社）伝統技術伝承者協会

絵画や書跡などを修理するさまざまな材料・用具の製作技術

装潢修理材料・用具製作

紙、木工、金工、染織、漆工など、装潢修理を支える伝統技術を有する会員が分野を超えて協力し、後継者の育成や原材料の確保、品質の向上など共通の諸問題の解決に取り組み、文化財修理を持続可能なものとするための活動をおこなっています。

彫金のようす

桐箱の製作

実演
「表具用の刷毛の製作」

13 （公財）美術院

東大寺（南大門）仁王像のように８ｍを超える大きなものから、手のひらサイズのものまで、仏像を修理する技術

木造彫刻修理技術

仏像、神像、肖像、仮面など対象を立体的に表した彫刻の多くは、木でつくられます。これらは木の接合部の緩み、虫食い、表面の金箔や絵具の剥落などに対する修理を定期的に行う必要があります。この修理技術は、明治31年（1898）から始まった国宝修理の技術を受け継いでいます。

木造四天王立像（文化庁保管）

木造二天王立像その１（文化庁保管）

14 浮世絵木版画彫摺技術保存協会

19世紀末ヨーロッパを夢中にさせた
日本の芸術“浮世絵”

浮世絵木版画技術

富嶽三十六景神奈川沖浪裏

実演
「江戸木版画の摺りと彫り」

江戸時代の印刷、木版を知っていますか？ 江戸時代には浮世絵がたくさん作られ、木版の技術が発達しました。浮世絵は展示すると傷んでしまうので、江戸時代と同じ図柄を同じ方法で復刻します。版木を彫り、摺る技術が大切に保存されているから、私達は江戸時代に作られたものと同じ浮世絵を見ることができるのです。

15 祭屋台等製作修理技術者会

“伝統ある多様な技術”が
組み合わされ、豪華絢爛な
祭屋台などを造り出す

祭屋台等製作修理

祇園祭（京都市）

懸装品製作途中

木工や彫刻、漆工、金工、染織等の多様な技術で構成される山・鉾・屋台などの製作や修理の技術。祭りで使われる用具や飾り物には、日本の伝統技術の粋が集められており、今日の私たちに華やかな姿を見せてくれます。

16 文化財庭園保存技術者協議会

各時代の文化的特徴を反映し、
自然への深い想いを持ってつくられた“庭園”

文化財庭園保存技術

名勝 伝法院庭園

敷松葉（名勝 依水園）

伝統的日本庭園を未来に残すために、維持管理し、修理・修復する技術です。石、水、そして植物が美しく配されている庭園。そのうらにはさまざまな技術が受け継がれています。

実演「冬のしつらえ 敷松葉と わらぼっち」

17 文化財石垣保存技術協議会

戦国時代に城郭とともに発達した石垣の修復に活かされる、“石を必要な形に割る技法、緊密に積み重ねる技術”

文化財石垣保存技術

矢による石割り

文化財に指定されている城郭などの石垣は、日本の伝統的土木構造物として、世界に誇る代表的な文化遺産です。解体、修理にあたっては研究者や専門家と連携しながら伝統的な技術を用いて進めます。

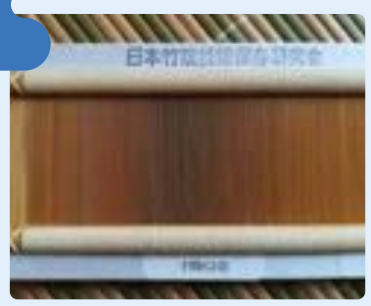
姫路城 帯櫓石垣

18 日本竹筬技術保存研究会

伝統的な染織工芸に欠くことのできない、
竹を用いた筬を製作する技術

竹筬製作

実演「竹筬作りのための竹加工」



竹筬

「筬」は機織りで織物を織る時になくてはならない機の大切な１つの部品です。日本では柔軟性に優れた真竹を原料に竹筬を製作し独自の織物を生んできました。竹筬製作の技術は丸竹を割り薄い小さな短冊状の筬羽を作り、それを数百枚並べ、糸で編んで完成します。近年は金属製の金筬が主流になりましたが、柔軟性のある竹筬は手作りの繊維素材や手織りの世界ではなくてはならない重要な用具です。

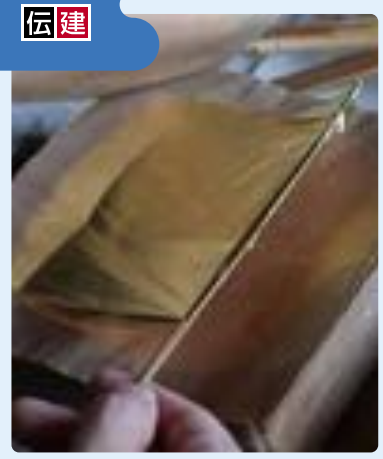
19 金沢金箔伝統技術保存会

伝建

極めて薄く、しなやかで大きく、
色艶の良い縁付金箔は漆器の装飾や
建造物の保存修理に使われる

縁付金箔製造

実演「縁付金箔うつし」



抜き仕事

縁付金箔製造は、手漉和紙を加工した箔打紙に金を挟んで打ち延ばし、厚さ１万分の１ミリの金箔を製造するもので、日本の伝統的な製箔技法です。打ち上げられた箔は、革板の上で一枚ずつ裁断され、箔合紙に移して仕上げられます。会場ではこの様子を実演しています。

20 （同）伝統工芸木炭生産技術保存会

昔から脈々と続く伝統技術で
“良質な木炭を製造”

木炭製造

松炭（燃料用）

日本刀製作や日本刀の原料となる玉鋼を生産するたたら吹き製鋼法、また漆器や金属器の研磨などに用いられる様々な木炭を製造する技術です。木炭の原材料は用途によって異なります。製造方法もそれぞれ異なるため、専門的知識と経験が要求されます。

窯出し（研磨炭 製炭）

21 （公財）日本美術刀剣保存協会

金属工芸の最高峰に位置付けられる
日本刀。“日本古来の製鉄技術で
製造”されたその素材は
玉鋼と呼ばれる。

玉鋼製造

日本刀の製作には玉鋼が不可欠です。江戸時代以来の製鉄法（たたら吹き）によりつくられる、刃物に最も適する純度の高い鋼が玉鋼です。たたら吹きの操業は開始から３昼夜、約70時間かかります。島根県奥出雲町の日刀保たたらで年に数回操業をし、その技術を継承しています。

たたら吹き

日本産漆生産・精製

漆というと思い浮かぶのは赤や黒に塗られたお椀ではないでしょうか。
漆は、漆の木からとれる樹液で、日本が世界に誇るすばらしい原料です。漆には抗菌力があります。
また、防腐力があって、素地になっている木が腐るのを防ぎます。
漆器（漆の器）だけでなく、古い建物や仏像や文化財にも漆が使われています。

22 日本文化財漆協会 伝建

世界に誇る“漆文化”を守り伝承するために、漆の生産を確保し、日本漆芸の発展・普及につとめる

日本の漆芸術は、自国において生産された漆によって成り立っていましたが、近年、国内産の漆は生産が著しく減っています。日本文化財漆協会では、漆の木を植え、育て、樹液を精製（塗料になるよう加工すること）するまでの技術を保存するために活動しています。

ウルシ苗植栽準備

漆精製（手グロメ）

23 日本うるし掻き技術保存会 伝建

漆の木の幹に一文字に傷をつけ、木がその傷を癒そうとして自ら出す樹液（生漆）をヘラで“掻きとって採取”

実演「うるし掻き」

漆を生産する技術の中に、成長した漆の木の幹に傷をつけて、漆液を採る「漆掻き」技術があります。保存会のある岩手県の浄法寺漆は、国内生産量の75%を誇り、接着力が強いなど、その質も大変優れているために、工芸作品の制作や日本の文化財の修復に欠かすことのできないものとして大切に守られています。

カンナで付けた傷に溜まった漆をヘラでタカッポへ掻き採る

24 琉球藍製造技術保存会

良質な藍葉を育てる栽培の技術と、発酵状態などを見極める熟練を要する“琉球藍の製造”

琉球藍製造

藍葉

琉球藍は、本土の藍とは別種で沖縄で古くから栽培され、藍染の染料として使用されてきました。沖縄の芭蕉布など伝統的な染織品のほとんどに琉球藍が使用されています。琉球藍の葉を発酵させ、石灰を加えて撹拌し泥藍を作る工程は熟練を要する重労働です。

撹拌前の石灰投入の様子

25 阿波藍製造技術保存会

東京五輪・パラリンピックで注目の藍色、徳島の藍師が伝統を守りながら大切につくり続けている

阿波藍製造

藍の花

天然の藍染料「すくも」を作る伝統技術です。すくもの製造には長い月日を必要とし、特殊な技術と周到綿密な管理が必要です。それだけにすくもを製造する職人は尊ばれ「藍師」または「玉師」と称されました。その技術は大切に受け継がれ、美しいジャパンブルーとその風合いを届け続けています。

切り返し

26 （一財）日本民族工芸技術保存協会

“染料として重宝された植物”の成分を使用し、染め分けてきた先人の技を今に活かす

植物染料（紅・紫根）生産・製造

紅・紫根は、古くから日本の代表的な植物染料の一つとして、伝統的な工芸品の染色に欠くことのできないものです。紅花は、エジプト・小アジア地方原産で古く中国を経て日本に伝来しました。紫草はその根から美しい紫色の染料を作ることができます。天然の植物染料はその良さが見直され、注目されています。

紅花（花びら）を水洗いした後の“花寝せ”（手前から一日目、二日目、三日目）

天日で乾燥させ、紅餅として完成

27 全国手漉和紙用具製作技術保存会

精密な用具を作り続ける職人の技が手漉和紙を支える

手漉和紙用具製作

和紙は美しさ、耐久性、強靭性をもち、文化財の修復にも欠かせないものです。また、天然素材の地球環境に優しい製品でもあり、世界中からの注目も高まっています。和紙を作るには精密で強靭な道具がなくてはなりません。和紙の用具を作る技術が、大切な日本の手漉和紙を支えているのです。

極細のたけひごで漉き簀を編む

28 昭和村からむし生産技術保存協会

福島県昭和村は江戸時代から、からむし栽培技術を
伝承してきた“上布用高品質苧麻栽培地”

からむし（苧麻）生産・苧引き

からむしとは、イラクサ科の多年草で、苧麻とも言われる植物です。からむしの生産技術、繊維を採取する苧引きの技術は昔から変わらず伝承されています。

からむし刈取

からむし100匁

29 宮古苧麻績み保存会

宮古上布等の織物の原材料である苧麻糸。
苧麻を栽培し手積みで糸を製作するまでの一貫した
工程を手がける宮古島の苧麻糸製作技術。

苧麻糸手績み

苧麻（宮古島の方言で「ブー」）

手績み苧麻糸

実演

「糸車を使い撚り掛け」

苧麻糸手績みとは、苧麻の表皮から繊維を取り、細く裂き、撚り績み、撚り掛け、かし掛けという５つの工程で手績みの糸を製作します。

歌舞伎

歌舞伎は、日本を代表する伝統芸能のひとつです。約400年前に発祥し、演劇・舞踊・音楽の各要素を備えた「総合芸術」として現在に受け継がれています。歌舞伎の表現の特徴は、近代の演劇のように写実的ではなく、あくまで舞台上で「それらしく」見えることを追求してきた点です。「それらしさ」を端的に表すために、扮装・小道具・演技が誇張され、それが様式化していきました。

30 歌舞伎衣裳製作修理技術保存会

それまで使用していた衣裳をもとに、
演じる役者に合わせて新たに再現する“衣裳製作”

歌舞伎衣裳製作修理

数多ある歌舞伎の演目に登場する役の衣裳は色や柄など様々なものがあり、それらを仕立て、着付け、修理をします。長い公演の期間中も着付けのほか、衣裳のメンテナンスを行い、歌舞伎の舞台を支えます。

31 歌舞伎大道具（背景画）製作技術保存会

幕が開いた時の期待を盛り上げ、
役者の魅力を最大限に引き出す“大道具製作”

歌舞伎大道具（背景画）製作

歌舞伎の大道具は背景を描いた「書割」、岩や樹木を描いて切りだす「張り物」など多種多様です。「書割」などの背景幕は、平面的に描かれるのが特徴で、リアルさよりも飾ったときの絵になる美しさが大切とされます。その芝居の内容を理解し、演出を把握したうえで、独特な形式、色使いで「その場面らしい」大道具を作ります。

実演

「花丸を描く」

32 歌舞伎小道具製作技術保存会

本物を作り得る知識に加え、役者の要望にも
応えながら舞台の効果を高める“小道具製作”

歌舞伎小道具製作

常盤笠
等間隔になるように
金紙を巻きつける

塗師屋にて、箔押しをしてもらい
完成した五鈷杵

小道具には、開幕時に置かれている「出道具」と、役者が持って使用する「持ち道具」に分けられます。また、小道具を「本物」と「拵え物」に分けることもできます。「東海道四谷怪談」で使用される「戸板返し」などの「仕掛物」、舞台で壊されてしまう皿などの「壊れ物」などは「拵え物」です。「拵え物」は舞台上では本物以上に効果的な働きをします。

33 組踊道具・衣裳製作修理技術保存会

組踊に登場する人物の身分・役柄などをあらわす“道具や衣裳”の製作

組踊道具・衣裳製作修理

沖縄の伝統芸能「組踊」は沖縄の古語のせりふ、琉球の音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞劇で約300年の歴史があります。小道具、大道具、衣裳は「組踊」の上演に欠かせないものです。

花笠

実演「小道具製作」

34 木之本町邦楽器原糸製造保存会

平安時代から変わらぬ技で作り出す絃が、和の音を奏でる

邦楽器原糸製造

三味線や琴、琵琶、胡弓などの弦楽器の糸（絃）に使われる原糸（繭から繰った糸）を製造する技術です。特徴は「生挽き」という、熱風で繭の中のさなぎを殺す方法。糸のコシや光沢を生むセシリンを保ち、美しい光沢と粘りのある絃となる糸をとる匠の技です。

仕上げ作業

実演「繭から糸を紡ぐ糸取り」

日本の技フェア 2021 出展・実演コーナー　一覧

※内容は変更になる場合があります。
※実演は終日にわたり、適宜休憩をはさみながら実施します。

区分	番号	選定保存技術	保存団体	実演内容
有形文化財等保存の技	1	建造物修理・建造物木工 伝建	（公財）文化財建造物保存技術協会	
	2	建造物木工 伝建	（一社）日本伝統建築技術保存会	「文化財建造物などの柱の根継ぎ修理に用いる金輪継ぎ」 「丸柱を自然石の上に建てる際の柱脚部と石口のひかり付け」 「台鉋削り、ヤリ鉋削り」
	3	建造物装飾 伝建	（一社）社寺建造物美術保存技術協会	
	4	檜皮葺・柿葺　茅葺　檜皮採取　屋根板製作 伝建	（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会	「檜皮葺」
	5	茅採取 伝建	（一社）日本茅葺き文化協会	「苫編み、苫葺き」
	6	建造物彩色　　建造物漆塗 伝建	（公財）日光社寺文化財保存会	「金箔の貼り付けと着彩」「金箔押し」
	7	屋根瓦葺（本瓦葺） 伝建	（一社）日本伝統瓦技術保存会	「本瓦葺」
	8	左官（日本壁） 伝建	全国文化財壁技術保存会	「茶室用竹小舞掻き」 「中塗り（ひげこ打ち・ちり廻り・中塗り）」 「上塗り（白漆喰・黄土のり土・紅色のり土仕上げ）」 「姫路城仕様屋根漆喰塗り」
	9	建具製作 伝建	（一財）全国伝統建具技術保存会	「建具製作」
	10	畳製作 伝建	文化財畳保存会	「伝統畳の製作」
	11	装潢修理技術 伝建	（一社）国宝修理装潢師連盟	「虫穴を埋める」
	12	装潢修理材料・用具製作	（一社）伝統技術伝承者協会	「表具用の刷毛の製作」
	13	木造彫刻修理	（公財）美術院	
	14	浮世絵木版画技術	浮世絵木版画彫摺技術保存協会	「江戸木版画の摺りと彫り」
	15	祭屋台等製作修理	祭屋台等製作修理技術者会	
	16	文化財庭園保存技術	文化財庭園保存技術者協議会	「冬のしつらえ　敷松葉とわらぼっち」
	17	文化財石垣保存技術	文化財石垣保存技術協議会	
有形文化財等保存の技 無形文化財等保存の技	18	竹筬製作	日本竹筬技術保存研究会	「竹筬作りのための竹加工」
	19	縁付金箔製造 伝建	金沢金箔伝統技術保存会	「縁付金箔うつし」
	20	木炭製造	（同）伝統工芸木炭生産技術保存会	
無形文化財等保存の技	21	玉鋼製造	（公財）日本美術刀剣保存協会	
	22	日本産漆生産・精製　※1 伝建	日本文化財漆協会	
	23	日本産漆生産・精製　※1 伝建	日本うるし掻き技術保存会	「うるし掻き」
	24	琉球藍製造	琉球藍製造技術保存会	
	25	阿波藍製造	阿波藍製造技術保存会	
	26	植物染料（紅・紫根）生産・製造	（一財）日本民族工芸技術保存協会	
	27	手漉和紙用具製作	全国手漉和紙用具製作技術保存会	
	28	からむし（苧麻）生産・苧引き	昭和村からむし生産技術保存協会	
	29	苧麻糸手績み	宮古苧麻績み保存会	「糸車を使い撚り掛け」
	30	歌舞伎衣裳製作修理	歌舞伎衣裳製作修理技術保存会	
	31	歌舞伎大道具（背景画）製作	歌舞伎大道具（背景画）製作技術保存会	「花丸を描く」
	32	歌舞伎小道具製作	歌舞伎小道具製作技術保存会	
	33	組踊道具・衣裳製作修理	組踊道具・衣裳製作修理技術保存会	「小道具製作」
	34	邦楽器原糸製造	木之本町邦楽器原糸製造保存会	「繭から糸を紡ぐ糸取り」

令和３年度に、選定保存技術「箏製作」「三味線棹・胴製作」が新たに選定され、保存団体「邦楽器製作技術保存会」が認定されました。

伝建 **ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」**／木工・屋根葺・左官・装飾・畳など、建築遺産とともに古代から途絶えることなく伝統を受け継ぎながら、工夫を重ねて発展してきた伝統建築技術。

※1 日本産漆生産・精製は、現在、有形文化財の修理にも用いられています。

ご来場のみなさまへ

※入場時の検温で 37.5 度以上の発熱があった方、マスクを着用されない方の入場はお断りいたします。
※実施にあたっては、スタッフの検温、マスク / フェイスシールドの着用、手洗い・手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保など、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底します。

お問合せ

日本の技フェア事務局（NHK プロモーション内）TEL:03-6271- 8515（10:00 ～ 17:00 ／土・日・祝を除く）
詳しくは「日本の技フェア」ホームページ　http://www.nippon-no-waza.jp/fair
文化庁ホームページ　https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/sentei_hozon/index.html

日本の技フェア